



広島平和構築人材育成センター
(Hiroshima Peacebuilders Center:HPC)
のロゴについて

不死鳥を象り、“奇跡の戦後復興を遂げた広島において、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成する”という HPCの精神を象徴しています。

発行年月 2011年3月
発行 広島平和構築人材育成センター
Hiroshima Peacebuilders Center (HPC)
〒730-0041 広島市中区小町1-20
特定非営利活動法人ピースビルダーズ内
TEL:082-236-1414 FAX:082-247-0643
e-mail : hpc@peacebuilders.jp
URL : <http://www.peacebuilderscenter.jp/>

コピーライト© 外務省
企画・編集 特定非営利活動法人ピースビルダーズ(PB)

平成 22(2010) 年度 外務省委託事業

平和構築人材育成事業

HPC

Hiroshima Peacebuilders Center
広島平和構築人材育成センター





「平和構築」とは？

私たちは、「平和構築」を「永続的な平和のための社会的基盤を作る活動」と考えています。

具体的には、武装解除・動員解除・元兵士の社会再統合、秩序の回復、兵器の管理・可能な限りの破壊、難民の帰還、治安維持要員への助言・訓練支援・改革、選挙支援、社会・経済開発などであり、その担い手は中央・地方政府、国連あるいはその他の国際組織、非政府組織など様々です。

「平和構築」とは、軍事的な紛争に苛まれた社会を、安定した社会へと導いていくための包括的な活動のことであり、紛争処理だけでなく、腐敗撲滅やHIV/AIDSなどの感染症教育・制御といった平和のための社会的基盤を確立するための活動を広く指します。

本事業の概略

平和構築の文民専門家を育成します

「平和構築人材育成事業」は、文民の平和構築の担い手を育成することを目的として外務省が立ち上げた人材育成事業です。

平成22(2010)年度は、外務省の委託を受けた特定非営利活動法人ピースビルダーズが運営する「広島平和構築人材育成センター(Hiroshima Peacebuilders Center:HPC)」が中心となって事業運営を行い、平和構築の現場で活躍する日本およびアジアの文民専門家を養成してきました。

具体的には、国内研修と海外実務研修によって、今後平和構築分野でキャリア形成を目指す、即戦力となる人材を育成する「本コース」、平和維持・平和構築の実務に従事する具体的可能性を持つ文民



のための「平和構築文民専門家訓練コース」(平成22年度より新設)、平和構築に関わりたという意思を有する人のための「平和構築基礎セミナー」を実施しました。

「本コース」の海外実務研修部分は国連ボランティア計画(UNV)が担当しました。また、同コースの日本人研修員には、平和構築の現場で引き続き活躍するためのキャリア構築支援が行われています。

この冊子は、本事業を広く知っていただくため、平成22(2010)年度の事業内容を紹介するものです。

国際支援の必要性

世界中でなお紛争が絶えない今、紛争はそこから遠く離れている私たちの経済活動や環境にも何らかの関わりを持っています。破壊された町や心身ともに傷ついた人々が紛争後の社会を再建するには非常に困難が伴います。それは現地社会の人々だけでは成し遂げられないかもしれません。二度と紛争が起こらない平和な社会を創る「平和構築」には、法律、政治、経済、警察などを作りかえていかなければならず、様々な分野のいろいろな能力を持った人びとが必要になってくるからです。そこで同じ地球に住む市民であるわれわれは、苦しむ人々への救済や紛争解決のための具体的な方法を見出すことが求められているのです。

現在行われている平和維持・平和構築では文民の活躍の場が広がっているにもかかわらず、高い能力が求められるため、まだまだ担い手が足りていません。平和構築の現場は非常に複雑で、武力勢力や犯罪組織、汚職といった状況に直面し、フィールド体験からしか得ることのできない能力が求められます。加えて現地社会の仕組みや価値観などを尊重した質の高い平和構築手法が要求されます。

また平和構築の現場では、専門的知識・技能、現地社会の人々と円滑にコミュニケーションする能力、前向きな思考、強い意志がなければ活動を続けていくことはできません。高い能力と強い意思の2つが備わっていなければ国際社会が必要とする平和構築の専門家とは言えないのです。

日本が経験した復興の歴史や、アジアの視点を活かした幅広いアプローチをもとにした人材育成事業を通じて、平和構築の専門家を「ヒロシマ」から送り出すことは、とても象徴的な意味を持ちます。平和構築の現場で真の平和を創り上げる際のより強い平和へのアピールとなるからです。日本から、アジアから飛び立つ真の平和構築の専門家を、紛争で傷ついた社会の人々は待っています。

contents

平和構築人材育成事業について	1
「平和構築」とは？	
本事業の概略	
平和構築の文民専門家を育成します	
国際支援の必要性	

平和構築人材育成事業	3
・平和構築の「担い手」をつくります	
・本事業に至るまで	
・実施体制	
・Messages from Key Persons 2010	

平和構築人材育成事業の主要施策	5
・2010 Report	
平成22年度 平和構築人材育成事業概要	
① 本コース ② 平和構築文民専門家訓練コース—	7
③ 平和構築基礎セミナー ④ 知的貢献	
⑤ キャリア構築サポート	
HPC上級顧問／過去の就職先の例	

キャリア構築サポート	9
・修了生からのコメント	

主要施策報告①本コース	11
・2010 Report	
・Pick up 講師／From 研修員	

国内研修	13
・国内研修のプログラム・講師紹介	
海外実務研修	15
・海外実務研修	
・本コース海外実務研修先の例	

主要施策報告②平和構築文民専門家訓練コース	17
・2010 Report	
・Pick up 講師・From 研修員	

主要施策報告③平和構築基礎セミナー	19
・2010 Report	
・Pick up 講師・From 受講者	

主要施策報告④	21
スケジュール 平成22(2010)年度	

主要施策報告⑤	23
知的貢献・シンポジウム・専門家会合等の報告	
・2010 Report	
・公開シンポジウムの開催	
・海外のワークショップ、会議への参加	
・Webの活用	

これまでの平和構築人材育成事業の実績	25
・人材育成のノウハウや知の蓄積を活かし世界の平和構築に貢献	
・過去4年間の事業を振り返って	

※肩書は事業関与当時のものとなっています。
※本誌で使用した写真は本事業修了生、HPC職員、ピースビルダーズ会員および外務省が提供。

平和構築 人材育成事業

平和構築の「担い手」をつくります

地球温暖化やテロ、大量破壊兵器などの様々な問題に対処するため、国際社会は一致協力することを求められています。特に国際平和と安全の維持においては、国際社会の協力の重要性が増えています。日本は唯一の被爆国として核兵器をはじめとする大量破壊兵器等の軍縮や不拡散などに取り組み、人的貢献として国連平和維持活動(PKO)への要員派遣やテロ対策への取り組みなどを行ってきました。しかし、紛争を解決し平和を構築する分野での人材育成はまだ発展途上にあると言えます。

本事業に至るまで

紛争に苦しむ国々に対し、平和の定着や国づくりのための協力を強化し、日本の国際協力の柱とするための検討を行うため、平成14(2002)年「国際平和協力懇談会」(明石康・座長)が開催され、同年12月に報告書がとりまとめられました。そこで官民一体となって、国際平和協力活動の人材の養成・研修・採用・派遣を効率的・総合的に行う有機的なメカニズムの創設が提唱されました。

その後の平成16(2004)年4月、人材育成のための具体的な施策を明らかにした「行動計画」が策定され、同年12月には「国際平和協力分野における人材育成セミナー」などが開催されるなど人材育成の重要性の認識が高まってきました。

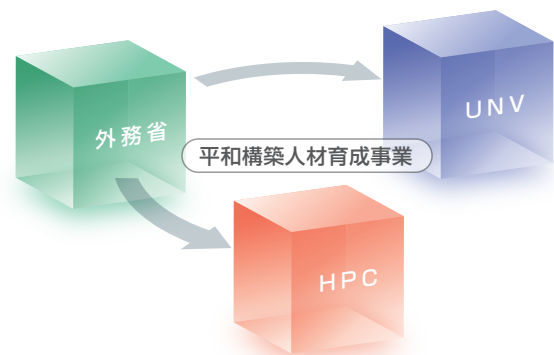
このような経緯をうけ、平成18(2006)年8月、国連大

これまで日本の平和構築は、世界の平和と発展のために「現場での取り組み(PKOや政府開発援助:ODAなど)」「国連における取り組み」「人材育成」を3本柱に取り組んできました。このたびの「平和構築人材育成事業」においては、3本柱の一つである「人材育成」を主目的に実施し、同時にシンポジウム開催等による「知的貢献」も視野に入れながら、日本のみならずアジアからも人材を集め、平和構築専門家の養成を行い、世界の最前線に立つ高い能力を持った人材を一人でも多く育成することを目指しました。

学で開催された「平和構築を担う人材とは・アジアにおける平和構築分野の人材育成に関するセミナー」で「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」の立ち上げが表明されました。さらに、翌平成19(2007)年1月に開催された東アジアサミットなどで、日本による東アジア協力の一つとして「平和構築分野の人材育成構想」が表明され、日本のみならずアジアを含めた事業となることが明確になりました。

日本が世界の平和と発展に貢献し、平和構築分野におけるさらなる協力を行っていくため、平成19(2007)年度から21(2009)年度の3ヶ年にわたって本事業が実施されました。本事業の修了生は、スーダンや東ティモール等の平和構築の現場で活躍しています。

を推進する国連機関です。ボランティアリズムは開発のペースや性質を変える力を持っており、社会全体とボランティア個人に対して利益をもたらすものです。UNVは地球規模のボランティアリズムの啓発、ボランティアリズムを開発計画に融合するためのパートナーとの連携、そしてボランティアの動員を通して、世界の開発に貢献しています。本事業では海外実務研修を行いました。



広島平和構築人材育成センター(HPC)

HPCは、平成22(2010)年度外務省「平和構築人材育成事業」を受託した特定非営利活動法人ピースビルダーズが国立大学法人広島大学の協力を得て運営しました。特定非営利活動法人ピースビルダーズは、広島を拠点に平和構築や人間の安全保障に関する諸事業を行っており、本事業では専門要員を配置した事務局を設け、事業運営全般を行いました。

国連ボランティア計画(UNV)

世界の平和と開発を支援するために、ボランティアリズム

Messages from Key Persons 2010

私たちがめざす平和構築の専門家の養成



松本 剛明

外務大臣

平和構築の現場で活躍できる
我が国及びアジア諸国の
文民専門家の層を拡大します



伊勢崎 賢治

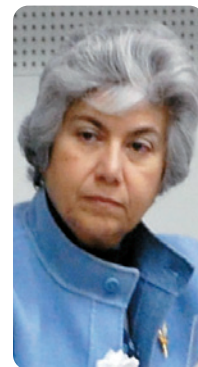
特定非営利活動法人ピースビルダーズ代表理事
東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

平和構築に貢献できる
将来のプロを「開発」します

このプログラムは単なる「訓練」ではありません。「ピースビルダー」を作るための「人材開発」事業です。世界中のどんな地域においても平和構築に貢献できる将来のプロフェッショナルを「開発」するプログラムなのです。私たちは、平和構築への強い意志を持つ若きピースビルダーたちが、お互いを励まし続けられるコミュニティを創り出し、彼らにアジアやその他の国々において社会改善の主流を担う存在となっていいただきたい。そうすることで「ピースビルダーズ」としてのキャリアを強固なものにすることができると信じています。



紛争後の平和構築は、国際社会の重要課題の一つです。国際社会は、政治的安定、治安の確保及び社会的安定を達成するため、対象となる国々の努力を継ぎ目なく包括的に支援していく必要があります。我が国は、国際社会の支援も得て、戦争の荒廃の中から復興を遂げ、世界に誇る平和で繁栄した国家となった経験を有します。この事業は、我が国自身の経験を踏まえ、他のアジア各国と協力しつつ、平和構築の分野で中核的な役割を果たす文民専門家の層を拡大するものであり、国際社会に貢献する重要なプログラムです。過去4年間で輩出した多くの修了生と同様に、我が国及びアジア諸国からの研修員が、高い能力と志を有する文民専門家として平和構築の現場で活躍していくことを強く期待しています。



フラビア・パンシエーリ

国連ボランティア計画(UNV)事務局長

ボランティア精神は平和と
発展の力強いリソースです

本事業の研修員は平和構築の現場でベストを尽くせるよう、国内研修を通して必要な知識とスキルを着実に身につけます。そのため、本事業で海外実務研修に協力したUNVやその他国際機関は、質の高い人材を受け入れることができました。今年度もまた、研修員のプロとしての意識とボランティア精神が幅広い平和構築活動へと導いてくれることに期待しています。また、研修員の方々にはボランティアリズムが平和と発展の力強いリソースであることを実感し、研修後もそれぞれの方法で平和構築の取り組みに貢献し続けて欲しいと願います。



平和構築人材育成事業の主要施策

2010 Report 平成22年度 平和構築人材育成事業概要



篠田 英朗

・広島平和構築人材育成センター
[HPC]事務局長
・NPO法人ピースビルダーズ理事
・広島大学准教授

対象に合わせた 3つの多様なコースを提供

平成22年度外務省委託「平和構築人材育成事業」では、「本コース」、「平和構築文民専門家訓練コース」、「平和構築基礎セミナー」の3つのコースを実施しました。

具体的には、本事業のメインコースであり、平和構築分野でのキャリア形成を目指す方々が、現場への第一歩を踏み出す機会を提供する「本コース」、平和構築の基礎的な理解の増進を目指した「平和構築基礎セミナー」、さらに今年度新たに開設された、NGO職員や公務員など、すでに現職の一環で平和構築の現場に派遣される具体的な可能性を持っている方々に向けた「平和構築文民専門家訓練コース」です。対象の異なる3つの多様なコースの設置により、研修員の目的に合わせたサポートを、研修を通じて提供しました。これら3つの研修コースの内、平和構築基礎セミナーを除く2コースには、日本人だけでなく、東ティモール、イラク、アフガニスタンなどアジア諸国からの研修員も参加しました。

本コースでは、東京で政府関係者や国際機関関係者と交

流する機会を設けた後、陸上自衛隊国際平和活動教育隊の施設で安全管理面の研修を受け、広島に移動しました。広島では、「紛争分析」、「プランニング」、「コーディネーション」、「プロジェクト・マネジメント」、「スキルアップ」といったテーマを各週に定めて、研修全体に大きな流れを作り出しました。この過程の中で最新の平和構築をめぐる概念や議論、現場の実情、実務遂行の方法論、キャリア構築のためのスキルなどを学び、議論し、体験してもらいました。キャリア構築を意識したコースとして、ワークショップでの演習を通じた作業を数多く取り入れる配慮もしました。

平和構築基礎セミナーは、日本国内外で活躍されている日本人の講師の方々に日替わりで講義をしていただきましたが、まだ平和構築に将来的に携わるかどうかはわからない方々を対象にしているということを意識して、平和構築において何が問題になっているのか、という大きな視点での議論を広げていくことを心がけました。

平和構築文民専門家訓練コースでは、既に職業を持つ専門家が対象ですので、治安部門改革や民軍関係の調整などの具体的なテーマに関する最新の議論を提供し、解決策を語り合ってもらような仕組みを設定しました。



将来に向けての財産となる 人的ネットワークを形成

本事業の魅力は、第一線の研究者、国連職員を含む一流の講師陣による講義や、本コースの研修員を対象としたキャリア構築支援だけではありません。講師をはじめ、国内外から参加した多様なバックグラウンドを持つ研修員、さらには既に平和構築分野で活躍し、キャリア構築をはじめた修了生とのネットワークが研修を通じて形成されることが、本事業の大きな魅力であると思っています。人材育成には長期にわたる視野が必要ですから、こうした人的ネットワークこそが参加する方々の将来にとって最大の財産となるはずだと考えています。



知的貢献活動に注力し、 国内外へ情報を発信

また、平和構築分野に関する知的貢献もHPCが力を入れた活動の一つです。2010年11月には、広く一般の方々の本分野への理解促進を目的とした公開シンポジウム「アジアからの平和構築～日韓対話2010～」を開催しました。さらに専門家会合の開催、ジンバブエ、マレーシア、ニューヨークなどで開催されたワークショップへの参加などを通して、国内外で平和構築の意義や重要性を伝えました。

今年度実施されたこれらの研修事業、知的貢献事業によって、HPCは平和を創る意思と能力を持った多くの人材の輩出と、専門家から一般の市民の方々まで含めた様々なレベルでの平和構築の理解の増進に大きく貢献することができました。



1 本コース

国内研修

日本およびアジア諸国から集まった研修員が、約6週間にわたり寝食を共にし、互いに切磋琢磨します。講義や参加型の問題解決ワークショップによる学習、自由討論や就職ガイダンスなども組み合わせ、平和構築支援のアプローチを作り上げていくことを目指しています。平和構築の専門的研究の実績をもとに、海外の平和構築人材育成機関や国連などの国際機関と連携し、世界最高水準の講師陣による充実した研修を実施します。それによって、平和構築支援の第一線で活躍する実務家との人脈づくりも期待されます。



研修では研修員から意見や質問が活発に述べられます。

海外実務研修

国内研修後は、国連ボランティア計画(UNV)を通じて国際機関等の平和構築の現場へ派遣され、最大12カ月間の実務研修を行います。平和構築支援を担うプロフェッショナルになるためには、実務経験が欠かせません。国内研修で習得した理論やスキルなどを平和構築の現場で実践し、即戦力となる人材を育成します。



実務経験を積むための海外実務研修。専門や派遣先により、その業務は様々です。

2 平和構築文民専門家訓練コース

※平成22年度より新設

平和維持・平和構築の実務に従事する具体的可能性を持つ文民を対象とし、日本およびアジア諸国からの研修員に対し、一流の講師陣による講義やワークショップを通じた約2週間の研修を行います。研修では、政府・国際機関・地域機構・援助機関などでの平和維持・平和構築活動において必要とされる実践的なスキルの習得を目指し、一部の研修員については、海外派遣の機会が提供される場合もあります。



3 平和構築基礎セミナー

平和構築の基礎理解増進を目的に平和構築基礎セミナーを行います。平和構築に関心を有する幅広い層を対象に、HPCと国連大学(UNU)の共催で実施します。「平和構築とは何か」「紛争はなぜ起こるのか」「国際社会の紛争への対応」などのテーマについて、日本国内外で活躍する講師陣による研修が行われます。



4 知的貢献

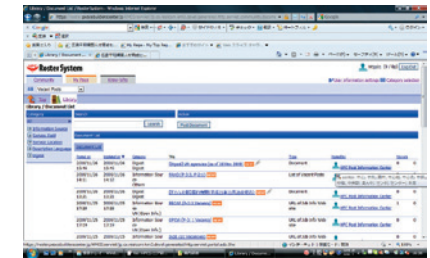
本事業では一般の方の平和構築への理解の促進のため、気軽に参加できる様々なイベントも実施しています。具体的には、専門家会合や「平和構築」をテーマにしたセミナー、シンポジウム、パネルディスカッションなどを行い、国内外で平和構築の意義や重要性を伝えます。



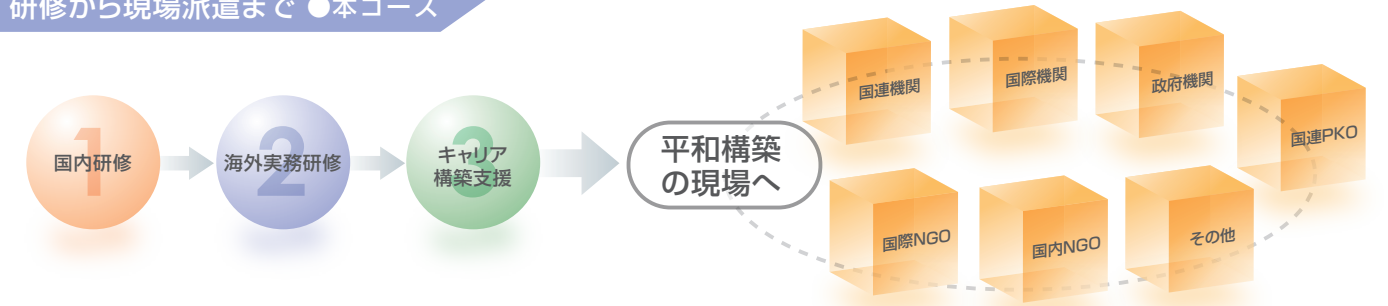
5 キャリア構築サポート

人的ネットワークが最大の資源となる平和構築分野。HPCでは、国内研修などにおける平和構築専門家との人的ネットワーク形成の機会提供のみならず、HPC独自のオンラインシステムによって、国際機関関係者等からの助言制度、修了生・研修員同士の交流の場を提供。縦横のつながりによって幅広い人脈を築き、今後のキャリア構築に役立てることが可能です。またシステムを通じて平和構築機関の空席情報提供も行っているため、タイムリーな求人情報を入手できるなど、サポート体制を確立しています。

詳細はP9-10



研修から現場派遣まで ●本コース



HPC 上級顧問

本事業の就職支援体制をサポートいただくため、HPCでは次の方々に上級顧問に就任いただきました。

伊勢崎 賢治

特定非営利活動法人ピースビルダーズ代表理事・東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授(元国連事務総長特別代表上級顧問兼部長 シエラレオネ担当)

井上 健

国連東ティモール統合ミッション[UNMIT]ガバナンス部長・首席ガバナンスアドバイザー(元国連コンボ暫定統治機構[UNMIK]市行政長官)

勝間 靖

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授(元国連児童基金[UNICEF]職員)

草郷 孝好

関西大学社会学部人間開発論教授(元国連開発計画[UNDP]貧困削減政策顧問アジア太平洋地域担当)

瀬谷 ルミ子

特定非営利活動法人日本紛争予防センター事務局長(元国連コートジボワール活動[UNOCI]DDR担当官)

中満 泉

国連PKO局政策・評価・訓練部長(元国連難民高等弁務官事務所[UNHCR]職員)

長谷川 祐弘

法政大学教授(元国連事務総長特別代表 東ティモール担当)

過去の就職先の例

国連機関

- ・UNDP(国連開発計画)
コソボ、ネパール、シエラレオネ、東ティモール、ニューヨーク本部、アフガニスタン
- ・UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)
ケニア、タイ、ジュネーブ本部
- ・UNICEF(国連児童基金)
バングラデシュ、エリトリア、シエラレオネ
- ・UNESCO(国連教育科学文化機関)
カンボジア
- ・UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)
レバノン
- ・WFP(国連世界食糧計画)
ローマ本部
- ・UN-INSTRAW(国際婦人調査訓練研修所)
ドミニカ

国連ミッション

- ・UNMIS(国連スーダン・ミッション)
- ・UNAMA(国連アフガニスタン支援ミッション)
- ・UNMIT(国連東ティモール統合ミッション)

国際機関

- ・IOM(国際移住機関)
スリランカ、南ダルフール

PKO訓練センター

- ・KAIPTC(コフィ・アナン国際平和訓練センター)

政府関係機関

- ・外務省(本省、在外公館)

NGO

- ・ADRA Japan
- ・JCCP(日本紛争予防センター)

その他

- ・JPO(ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー)合格者もあり。

(2011年3月までの実績)

キャリア構築サポート

システム&人によって、キャリア構築支援を展開 HPCは研修員・修了生を支援し続けます

平和構築分野における就職は、終身雇用もなく不安定な側面もあります。しかしその一方、世界の平和構築の現場では人材が不足しており、優秀な人材を求めていることも事実です。HPCでは、独自の「ロスターシステム」の他、専門家・実務家と

の「出会いの機会」を提供することによってキャリア構築支援を行っています。この「システム」と「人」による両輪によって、即戦力として平和構築分野で活躍できる人材を増やすことを目指しています。

①「HPC ロスターシステム」による支援

「HPCロスターシステム」はHPC独自のオンラインシステム。現在の研修員・修了生が登録され、登録者全員が使用可能なシステムです。様々な側面から、一人ひとりのニーズに応じたキャリア構築をサポートします。

※2010年度現在、下記「HPCロスターシステムの概要」③の機能は日本人本コース研修員・修了生のみ対象

ロスターシステムの概要

①メンバーシップ機能

研修員・修了生のプロフィールを蓄積し、平和構築人材データベースとして活用するとともに、一部情報を登録メンバーに公開してコミュニケーションを促進します。

②掲示板機能

登録メンバー全員の交流の場です。年度・コースを超えて全ての登録者が交流する縦横のつながりの場を提供することで、メンバー同士のネットワーキングを支援します。

③メンター制度

国際機関の実務家・人事担当者などの専門家約30名を、メンターとしてリストアップ。面接のノウハウなどの実用的な質

問から現場での不安等、研修員一人ひとりが自分に合ったメンターに質問し回答をもらうという、個別相談制度です。第一線で活躍する専門家の生の声を、直接聞くことができます。

④空席情報提供

国連・NGO団体・外務省などの空席情報を収集・提供しています。空席情報の中には、HPC独自の情報も含まれ、迅速かつ幅広い採用情報を得ることが可能です。更新情報は登録者にメールで送られますので、タイミングを逃すことはありません。

⑤文献ダウンロード機能

研修テキストや研修時に使用した教材・資料などのデータをダウンロードできます。

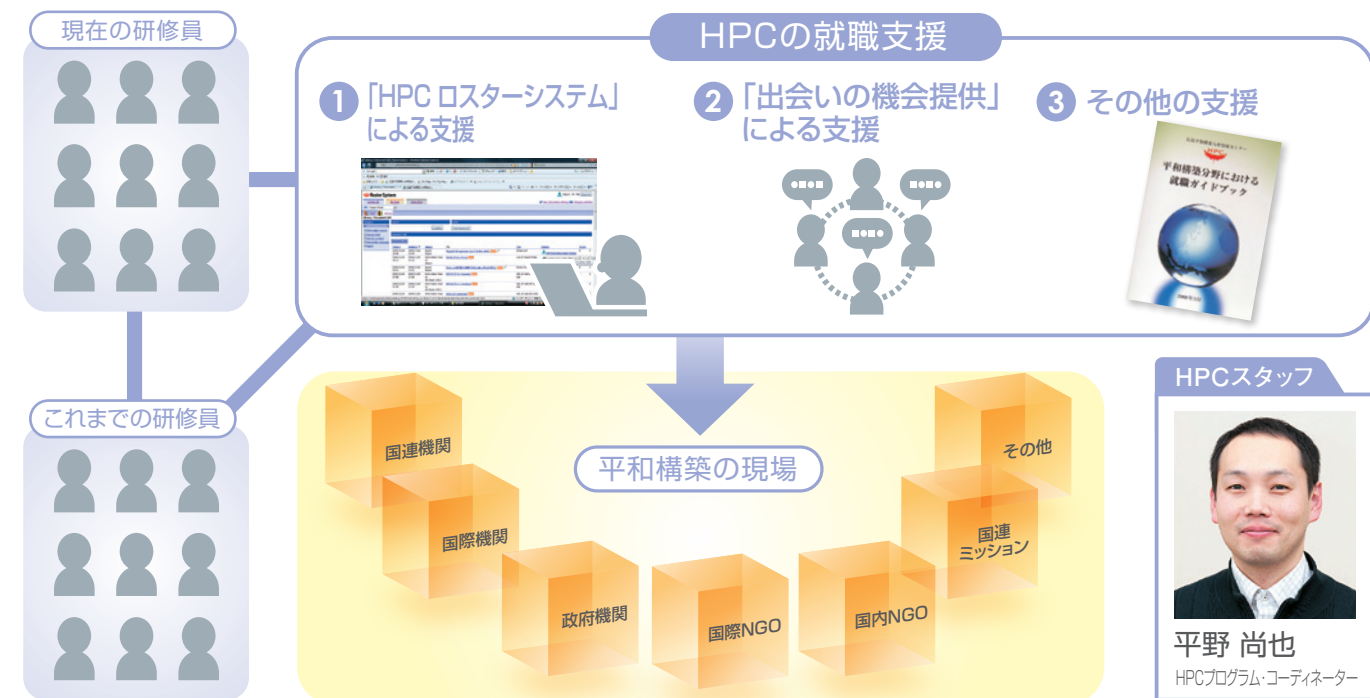
②「出会いの機会提供」による支援

平和構築の分野では、人的ネットワークが資源。国内研修自体が専門家との出会いの場ですが、HPCではさらに、修了生も多くの機会に継続的に招待し、出会いの場を提供するようにしています。

確かなサポート体制のもと、平和構築という目的を同じくする人々の交流を進めることで人的ネットワークを拡大していくことは、平和構築分野の発展にもつながると私たちは考えています。

③ その他の支援

人材育成事業を継続し、世界の平和構築分野に人材を送り出しているHPCならではの蓄積したノウハウ。キャリア構築の基礎知識・履歴書の書き方・面接のノウハウなどについて、経験者の体験談等を掲載した小冊子を配布しています。



修了生からのコメント



南部 成子

- UNHCR [国連難民高等弁務官事務所] ジュネーブ本部アソシエート・プログラム (環境分野) オフィサー
- 平成20 (2008) 年度研修員

この研修に参加する前は、まさか自分が難民支援に携われるようになるとは想像もしていませんでした。HPCの海外実務研修を通じて初めてエチオピアの難民キャンプに足を踏み入れたときの気持ちは今でも忘れられません。タイの貧困層を目の当たりにして育った経験から、人道支援を一生の仕事としたいと考えていた私にとって、HPCの研修は一気に道を開いてくれました。祖国を追われて苦境にある人々と共に汗を流し、彼らの生活を改善していくという今の仕事に大きな充実感を感じています。



福島 葉子

- WFP [国連世界食糧計画] ローマ本部 購買担当官
- 平成20 (2008) 年度研修員

平和構築分野では、「タフな人材」、が求められているのだと思います。僻地や危険地での勤務に耐えられる精神力・体力はもとより、長期にわたる契約・就職がなかなか難しいこの分野の就職状況では、仕事の先が見えないことに対してもめげずに続けて行くことのできる精神力、それを支える熱意が求められるのではないのでしょうか。私自身、その点で至らないので、同僚が殺されても、自分の家族が病気になるでも、それでもこの分野で仕事を続けているタフな人達に尊敬の念を感じざるを得ません。



役に立った経験

HPCで研修を受けるまでは平和構築分野での経験が全く無かったので、少し心配な面もありました。しかし、民間企業での6年の勤務経験と、HPCの海外実務研修でのケニアにおけるフィールド経験によって幅広い視野を持つことができ、道が開けました。

キャリアステップ

- 2001年～2007年 IBM日本株式会社購買部にて勤務。
- 2007年～2008年 国連平和大学修士課程。
- 2008年～2009年 HPC海外実務研修でWFPケニア事務所に購買担当官として勤務。その間にJPO試験に合格。
- 2009年～2010年 内閣府国際平和協力本部事務局にて研究員として勤務。
- 2010年～ WFPローマ本部に購買担当官として勤務。日本政府所有米や魚の購入、IT関連物資調達業務に従事。

役に立った経験

UNHCRではフィールド経験が強く求められますが、その第一歩をつかむのは困難です。HPCの研修はエチオピアの難民キャンプに飛び込む機会を与えてくれました。その経験は、現在のUNHCR本部での仕事に大きく役立っています。



キャリアステップ

- 2002年～2004年 日本赤十字社本社で国際救援に携わる。
- 2007年～2008年 日本赤十字社スリランカ事務所に津波復興支援事業に従事。
- 2008年～2009年 HPC海外実務研修でUNHCRエチオピア事務所にコミュニティ・サービス・オフィサー (UNV) として勤務。ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー試験 (JPO) に合格。
- 2009年～ UNHCR本部にアソシエート・プログラム (環境分野) オフィサーとして勤務。難民キャンプの環境改善事業に従事。



古本 建彦

- UNDP [国連開発計画ニューヨーク本部] 開発政策局ガバナンスグループ選挙プログラム・アナリスト
- 平成19 (2007) 年度研修員

HPCの人材育成事業が4年目に入りました。最近では、さまざまな所でHPCの研修生・修了生に出会い、多くが平和構築のキャリアを歩み続けていると感じます。HPCがプロフェッショナルのジャンプ台になっていることを実感しています。しかし、一方で、HPCの研修プログラムだけでは通用しないのも現場の現実。プログラム修了後もさらに得意分野の専門性を高めていかなければならないという覚悟を持ち、貪欲な向上心を維持することが大切だと思います。HPCはあくまで「きっかけ」。そうした心意気を持っていたいと思います。



ネパール選挙支援プロジェクトを通じて有権者登録が済んだ女性。

役に立った経験

ネパールでは、当時のHPC講師が平和構築アドバイザーとして同じ事務所に赴任してきました。今度は同僚としてアドバイスをもらうという幸運に恵まれました。HPCで第一線の実務家とのネットワークができたことは大きな財産となっています。

キャリアステップ

- ～2006年 共同通信に勤務。
- 2007年～2008年 HPC海外実務研修でUNVとしてUNHCR南スーダン事務所にアソシエート帰還担当官として勤務。
- 2009～2011年 UNDPネパール事務所にプログラム・アナリストとして勤務し、選挙支援と援助効率化支援を担当。
- 2011年2月～ UNDP本部開発政策局ガバナンスグループに選挙プログラム・アナリストとして勤務し、ヨーロッパ・OIS諸国の選挙関連プロジェクトの支援などを担当。